



## ギャラリー1045 富山

ギャラリー1045富山は、富山駅南口からすぐの大通りに面した東横 INN 富山駅新幹線口IIの 2階と3 階に併設されたギャラリーです。外から見えるガラス張りのギャラリーは、駅周辺を行き交う人や観光客などにも興味を持っていただけるような展示が可能です。富山ならではの伝統工芸作家による作品をはじめ、県内外のアーティストの個展やグループ展を開催してまいります。



2025

3.16日 - 5.18日

open 10:00~17:00 | 水・木曜日休廊 | 入場無料

米林 雄一 展

# TO THE FUTURE



「微低音」2015 37x40x28cm スプルース材、グラファイト

4.13日 作家によるギャラリートーク 14:00~



ギャラリー1045 富山

WEB  
<https://gallery1045.com>

Email  
[gallery-toyama@toyoko-inn.com](mailto:gallery-toyama@toyoko-inn.com)

Instagram  
[@gallery1045\\_toyama](https://www.instagram.com/gallery1045_toyama)

〒930-0003  
富山県富山市桜町 1-4-1、2F、3F  
TEL.076-471-5553

後援：北日本新聞、二紀会富山支部、  
日本美術家連盟、日本建築美術工芸協会  
協力：GASBON\_METABOLISM



「宇宙から戻ったひとがた」  
ガラス、ブロンズ



「ひとがた」

彫刻家、米林雄一にとって、富山は第二の故郷であるといっても過言ではありません。

戦時中に父の生まれ育った富山へ疎開し、小学校から高校まで小杉町（現射水市）で過ごしました。富山県が創設した、さまざまな分野において活躍が期待される人に贈られる「とやま賞」の受賞、県立美術館での個展開催、パブリックアートの設置など、富山は米林にとってゆかりの深い土地です。

米林の作品は抽象的で一見わかりづらいかもしれませんが、バランスの美しさ、素材を生かした形、圧倒的なスケールなど、見る者を魅了します。本展では、存在感抜群の大型の木彫作品や、長年テーマにしている宇宙をモチーフにした作品のほか、子どもたちのために作った積み木など体験できる展示も行います。

子ども向けのワークショップや東日本大震災の被災地の学校での活動、長年大学で教鞭を執った経験からも、一貫して未来への子どもたちへのメッセージを、作品を通して発信しているのかもしれない。ぜひゆっくりとご覧いただけたら幸いです。

# 米林 雄一 展

# TO THE FUTURE



「微構」2008 110×85×16cm アガチス材、鉛、グラファイト



「微垂音」1989 58×110×20.5cm ブロンズ



「宇宙ステーション軌道モデル」2006 15.6×15.6×15.6cm ブロンズ

## 米林雄一 PROFILE

(1942-) 東京都出身、長野県信濃町在住。

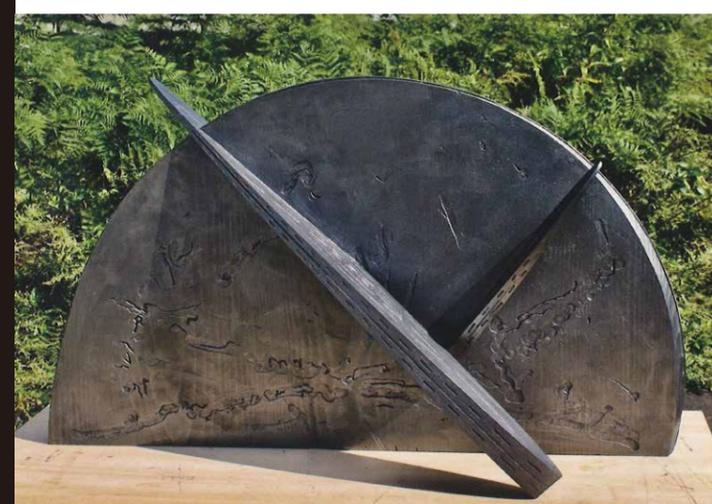
金沢美術工芸大学彫刻科卒業、東京藝術大学大学院彫刻科修了。彫刻界の芥川賞とも言われる、「平柳田中賞」受賞など賞歴多数。作品のテーマとしての制作だけでなく、JAXAとの共同研究で、宇宙飛行士に人形を作ってもらって地球に持ち帰るプロジェクトを成功させている。現在日本美術家連盟理事、日本建築美術工芸協会理事、東京藝術大学名誉教授、二紀会理事。



「微海音」1996 45×484×30cm スプルース材、鉛、グラファイト



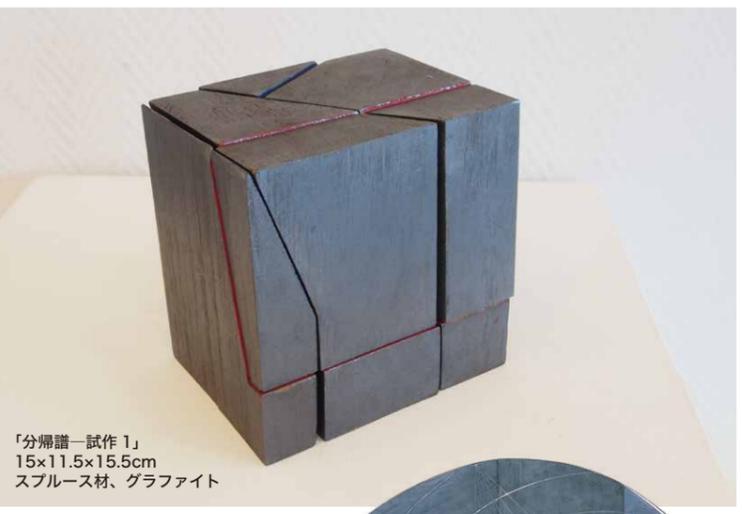
「微惠音 2003 エスキース」  
2003 46.5×44×33cm スプルース材、グラファイト



「微航の景」



「GRADUALLY(漸進)」  
1966 190×30×30cm  
ローズウッド材



「微音音 II」  
1987-1992 165×330×200cm スプルース材、鉛、黒鉛

- ① 「分冊譜一試作2」 1986-1987 15.5×18×15.5cm スプルース材、グラファイト
- ② 「囲むかたち」 2024
- ③ 「風の遠景」 2022
- ④ 「Locus of Cube」 1976 43×46×31cm 真鍮
- ⑤ 「机と椅子」
- ⑥ 「Untitled」 2001 30×37×30cm スプルース材、グラファイト
- ⑦ 「薄いトルソ(男)」 1985 39.5×23×9cm ブロンズ
- ⑧ 「SOLID一試作」 1969 26×40×33cm 真鍮